

世界初のソリッドボディ・エレクトリックベース“プレジジョン”の最初のモデルチェンジは、1954年のコンフォートボディへの移行とサンバーストフィニッシュの導入である。しかしこの偉大なベースの歴史を語る上でこの時の変化はさほど重要ではない。何よりも重要なのは1957年のモデルチェンジと '62年の最終的な完成である。

'57年のモデルチェンジ、それはスプリット・ピックアップの搭載である。今なお変わることなく受け継がれている1"×2"の小さなピックアップは2個1組で、1・2弦側用と3・4弦側用とが互い違いに取り付けられ、1本の弦に対して2個のポールピースが割り当てられるようになっている。

これによって振幅の大きいベースの弦の動きを確実にキャッチ出来、さらにこの2個1組のピックアップはそれぞれのコイルが逆巻で逆極のマグネットを持たせ、これをシリーズワイヤリングすることでハムキャンセリング効果をも獲得した画期的なものである。

このピックアップによりプレジジョンベースは一応の完成を見たと言って良い。その後、フィニッシュやピックガードなど細かな部分で変化し、ローズウッド・フレットボードの採用、そしてその貼り方の確立を最後にベース



'57 Vintage Precision Bass
(Re-issue of 1957 production)

Precision Bass

史上揺るぎない地位を築くことになるプレジジョンベースは事実上の完成に至った。1962年、開発プロジェクトがスタートしてから12年後のことである。今、シリーズにある2種のプレジジョンはこうした完成度の高い時期のモデルのリイッシュである。



'62 Vintage Precision Bass
(Re-issue of 1962 production)



Pick Guard

'57モデルには当時一時的に採用されたアノダイズドアルミニウム・ピックガードを、'62モデルにはベッコウ柄セルロイド系ピックガードをマウントしてオリジナルを再現している。

Pickup

ハムノイズキャンセリング機能を持ち、しかも各弦高に対応したセットポジション調整が可能なスプリット・ピックアップ。1/3世紀を超えた今もなお、他の追随を許さぬ画期的なこのピックアップはフェンダーの偉大さの証明でもある。



'57 Vintage Precision Bass
Pick Guard

'57 Vintage Precision Bass (Re-issue of 1957 production)

Pickups

1 Split single-coil
(Series-wired,
diametrically phase)

Controls

1 Volume, 1 Tone

Scale Length

34" (863.6mm)

Fretboard

Maple

Frets

20 Vintage style

Radius

7.25" (184.2mm)

Body Material

Alder

Colors

803, 806, 841

'62 Vintage Precision Bass (Re-issue of 1962 production)

1 Split single-coil
(Series-wired,
diametrically phase)

1 Volume, 1 Tone

Scale Length

34" (863.6mm)

Fretboard

Rosewood

Frets

20 Vintage style

Radius

7.25" (184.2mm)

Body Material

Alder

Colors

800, 806, 841

